

2024年7月31日

東急不動産株式会社
東急リゾート&ステイ株式会社

東急リゾートタウン蓼科は、“地域環境”・“自然環境”と共創する環境共生型リゾートへ

「TENOKA 蓼科」2024年7月26日(金)オープン

～地域連携および環境取り組みの新たな発信拠点～

東急不動産株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：星野 浩明、以下「東急不動産」）が保有し、東急リゾート&ステイ株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：栗辻 稔泰、以下「東急リゾート&ステイ」）が運営する東急リゾートタウン蓼科（長野県茅野市、統括総支配人：加瀬 努、以下「タウン」）に、地域連携および環境取り組み発信の拠点として「TENOKA 蓼科」を2024年7月26日（金）にオープンしたことをお知らせいたします。



TENOKA 蓼科外観（撮影：山内紀人）

■東急リゾートタウン蓼科が目指す真の“環境共生”

TENOHA 蓼科では「地域環境」と「自然環境」、それぞれの「環境」と向き合い共創していくことで、真の“環境共生”を実現していくことを目指しています。

「環境」について考えることは“非日常”という人もまだ多い中、タウンへの来訪を通して、2つの「環境」への意識を“日常”に持ち帰ってもらえるよう、“地域連携”と“環境配慮”の価値創出および発信の拠点としてTENOHA 蓼科をオープンしました。

1978年に初めて別荘地を分譲して以来、長きにわたって自然との共生を続けてきた当タウンでは、森林の樹木密集を抑制するために木を間引く保全間伐を実施してきました。間伐をすることで、森の下まで光が差し込むようになり、下草や若木の成長が促進され、脱炭素効果の向上や、生物多様性の創出に貢献することが可能となります。

TENOHA 蓼科内の壁面や家具、什器は全てタウン内の間伐材を使用して作られており、タウン内の環境取り組みに実際に触れることで、蓼科の森、そして自然をより身近に感じてもらうことができます。また、これら家具や什器は TENOHA 蓼科のコンセプトに共感いただいた地域の製材所や工房協力の下で製作しており、木材の利用をフックにした地域連携の在り方を実現しています。



(上) TENOHA 蓼科内装 (撮影：山内紀人) (下) タウン内で間伐したカラマツのオリジナル家具

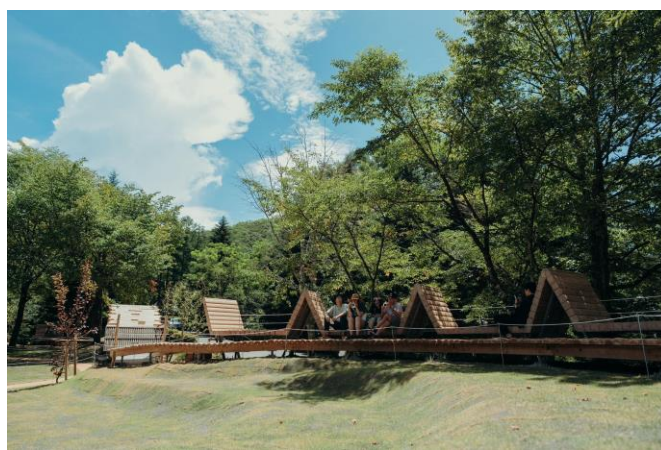
■TENNOHA 蓼科に隣接する広場

TENNOHA 蓼科に隣接する広場内においては長野県産の木材をふんだんに使用しており、木材の地産地消を徹底しています。これら木材は100%植物由来の原料で防腐処理を施しており、雨などによって融解した場合の生態系への影響を最小限にとどめるような工夫をしています。

広場の入口ゲートには、木材だけでなく、地域の石材や、工事の際に出たガラス廃材をアップサイクルして作ったガラスブロックをあしらっています。そのゲートから繋がり広場を囲むループテラスは、タウンから始まる地域循環の輪を表現しています。



広場の入口ゲート



広場を囲むループテラスと造作ベンチ



芝生と木に囲まれた緑豊かな空間（撮影：山内紀人）

■地域事業者らと共に“まちびらきマルシェ”を開催

TENOHA 蓼科に隣接する広場において、2024年7月26日から28日までの3日間「まちびらきマルシェ」を開催しました。地元の飲食店や木材を扱う地域事業者のブースが並び、別荘利用者やタウン内宿泊者、近隣市町村の住民の方が多く集まりました。今回のマルシェイベントをきっかけに初めてタウンを訪れたという地元の方の声も多く聞くことができたほか、地域の事業者同士の横のつながりも生まれ、地域コミュニティ創出の拠点としての第一歩を踏み出しました。



蓼科湖畔に醸造所を構える株式会社エイトピークス



茅野市内で枝葉からプロダクトを造る株式会社ヤソ

■茅野市との協力

東急不動産と東急リゾート&ステイは、TENOHA 蓼科が位置する茅野市との間で、2022年3月から包括連携協定を締結しており、森林資源を核とした持続可能な地域循環の推進や地域の魅力・暮らしやすさ向上を目指してきました。今回のまちびらきマルシェも茅野市後援のイベントとして実施したものです。

また、2024年6月には、八ヶ岳ファン拡大を通じた関係人口創出事業として、茅野市とともに移住促進等に関して協議を開始しました。今後も茅野市の魅力を全国に発信する拠点として、TENOHA 蓼科を活用していく予定です。

■施設概要

施設名称	TENOHA 蓼科
所在地	長野県茅野市北山字鹿山 4026-2
設計	古谷デザイン建築設計事務所（建築）・株式会社リパブリカ（内装）
施工	株式会社石勝エクステリア（外構）・株式会社イマージ（内装）
ランドスケープ	古谷デザイン建築設計事務所

■東急不動産の地域共生施設「TENOKHA(テノハ)」とは

TENOHA(テノハ)は、「手のひら」と「葉」の造語です。施設を大きな木、新しいライフスタイルを沢山の葉として、ものを作り出す手と手が、重なり合う葉のように広がり、新しい時代やものに向けて人やモノ・サービスが育っていく場所であることを表しています。地域の皆様と手と手をたずさえて、沢山の葉を増やし、更に大きな木へと成長して場を目指しています。

当社は、全国にこれまで5か所の「TENOKHA」を展開しています。北海道松前町や埼玉県東松山市など再生可能エネルギー事業地を舞台にした施設、東京都渋谷区代官山でサステナブルな生活体験を提供する複合施設「TENOKHA 代官山」など、都市と地方で、地域の課題解決や活性化につなげていくことを目的とした、事業を通じた地域共生取り組みを行っています。今回の蓼科が6か所目となり、当社グループのリゾート事業を通じた、地域とともに環境、自然と共生する施設として誕生しました。各拠点での地域共生の活動とともに、相互連携・共同イベントなどで地域のつながりを創出していきます。

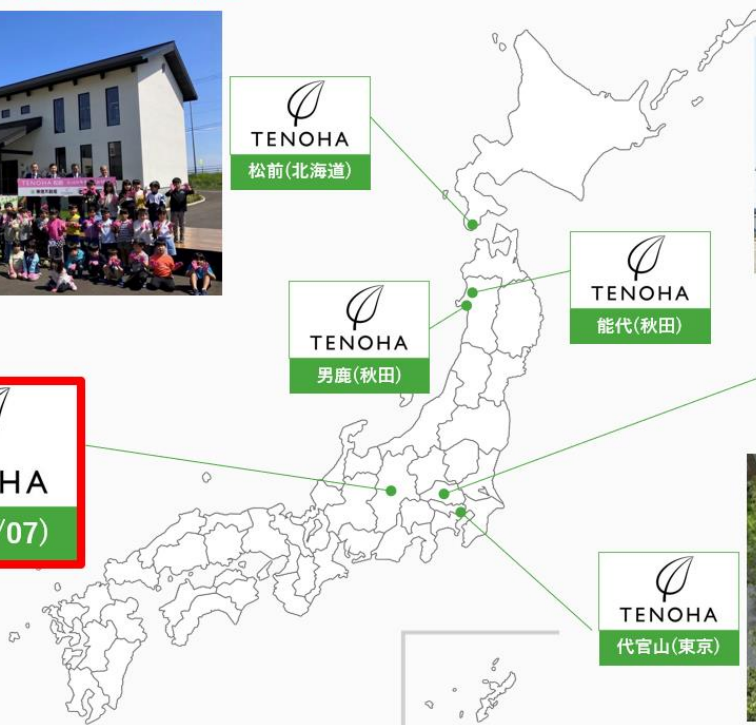


【全国の「TENOKHA (テノハ)」】

まちに根差し、まちづくりの拠点へ



再エネ×農業×地域共生



サステナブルな生活体験を提供



■環境経営と「東急リゾートタウン蓼科」での取り組み

当社は、東急不動産ホールディングスグループで掲げる全社方針「環境経営」を事業の中で推進しています。3つの環境重点課題「脱炭素社会」「循環型社会」「生物多様性」を包括的に捉え、環境課題解決を通じて、持続的な社会と自社の成長を目指しています。

この度オープンした TENOHA 蓼科を含む当タウンでは、豊かな自然を活かしたリゾート開発・運営を行っています。本日付けで同時開示した以下のリリースでは、当タウンでの事業を通じたネイチャーポジティブへの貢献に関する調査レポートについて発表していますので、あわせてご覧ください。

リゾート事業における「TNFD レポート（第3版）」公開
～東急リゾートタウン蓼科でのネイチャーポジティブ～

tokyu-fudosan-hd.co.jp/news/others/pdf/2e581dc440f9f85b612079f63a4080da3eaf66cb.pdf